

# 広報 きたもと

12月  
2020 No.994

特集面

きっと、もっと、きたも트가好きになる 旬な話題をお届け!

&green  
[アンドグリーン]

[特集]

北本市シティプロモーション事業

マーケットの学校

&green暮らしの学校



あなたもまだ知らない  
北本の豊かなひと・とき  
～人とのつながり × ゆったりとした時間～





# あなたもまだ知らない 北本の豊かなひと・とき

～人とのつながり × ゆったりとした時間～

&green  
アクトグリーン

今年、新型コロナウイルス感染症の影響により、従来の生活様式に変化が求められる年となりました。

緊急事態宣言による外出の自粛や、オンラインによるコミュニケーションの推奨によって、日々の暮らしの在り方や社会とのつながり方が大きく変わろうとしています。

これまで、忙しい毎日をごす中で、住まいの拠点があるまちとつながる場がなかった人も、自粛期間等を通して、自分が住んでいるまちに目を向ける機会が増えたのではないのでしょうか。

市では、シテイプロモーションの一環として、より「あなたらしい暮らし」を送っていただけるように、北本というまちの魅力を改めて体験できる様々な事業を展開しています。

今回の特集では、今年度実施した事業の中から、「マーケットの学校」と「&green暮らしの学校」をご紹介します。



# きたもとで考える

## マーケットの学校

マーケットとは？

マーケットを日本語でいうと「市」。モノを売り買ひするために人が集う場所です。海外では日常の風景の一部になっており、モノの売買だけにとどまらず、売り手と買い手、そして訪れた人同士が顔を合わせ、交流する場になっています。

なぜ北本でマーケットを考えるのか？

北本市のシテイプロモーションの取り組みは、皆さんのまちへの「好き」を高め、少しでも関わってほしいという想いで行っています。市で開催されている、「みどりいち」 「春の森めぐり」「秋の収穫祭」といった様々なマーケットは、北本で採れた野菜の販売、個性豊かな個人店の出店、親子で楽しめるワークショップなど、まちの魅力が溢れる素敵な空間となっています。

マーケットはまちへの「好き」を高め、参加の場を提供する最高の取り組みではないか？そんなマーケットをもっと多くの人に知ってもらいたい、もっと日常的に開催したい。そんな想いから、今回は北本でのマーケットの価値や展開を考えていきます。

マーケットの学校とは？

マーケットを通して、人との繋がりや「自分たちのまちに必要な楽しみを、自分たちで作っていく」ことを一緒に考える講座です。

マーケットを研究されている鈴木美央さんを講師にお招きし、マーケットとは何か、北本で開催するならどのような場所、どのような運営方法になるかを実践的に学びました。

全5回の講座に市内外から15人ほどが参加。各回では、座学ではなく、グループに分かれて参加者同士が対話し、それぞれ「マーケット」についてどのような考えを持っているのか、どのような問題意識があるのかなど、考えを共有し、議論を深めていきました。



講師の鈴木美央さん

- 【第1回】改めてマーケットって何なのか考えてみよう「マーケットの話」
- 【第2回】実際にやっている人に話を聞いてみよう「マーケット運営者座談会」
- 【第3回】マーケットを妄想する1「北本のマーケット文化を考えよう」
- 【第4回】マーケットを妄想する2「北本のフィールドを見てみよう」
- 【第5回】マーケットの学校講義編まとめ「北本でのマーケット文化」を考える



マーケットに出店するようになったきっかけは、趣味のミニチュアブーツ等のレザークラフト作りです。趣味で作っていたところ、友人から売ってほしいと話をもちかけられるようになり、売る場所もないから、じゃあ出店してみようかなど。市外のマーケットに出店していましたが、北本にもマーケットがあったほうが嬉しいとずっと考えていました。

北本にも20年前くらいには市場がありました。今は農家にしても、レザークラフトにしても、あまりマーケットがありません。私の母親は趣味で編み物を作っていますが、作品ができあがっても、どこかで誰かに見ってもらう機会がありません。例えばネットを介して



今井 邦夫さん(市内在住)

農業を営みながら、自宅の工房でレザークラフト作家として活躍。市外のマーケットに出店していた経験から、北本でもマーケットを開催したいと思うようになった。自宅の工房のお披露目会や、そのお披露目会から生まれた「芋煮会」を自宅の庭で企画・開催し、交流の場をつくられています。11月15日に開催した「芋煮会」には、今回マーケットの学校がきっかけで知り合った人も出店することに。つながりの輪がひろがっています。



マーケットの学校で発言している今井さん

### 北本でもマーケットを開催したい

体験者のメッセージ

販売するという選択肢もありますが、年配の方の場合は協力者がいなければ厳しいと思います。

今回、「マーケットの学校」が開催されると知ったときは、行政がこういった学校を開くこと自体がすごいなと思いました。大きな実績がない個人にとつて、マーケットを開催するとすると、行政の力は不可欠です。出店する側の市民としては、最初から行政側の協力が得られることが分かっていけば、こんなに心強いものはありません。

将来的には北本で大きなイベントができればと思っていますし、(自分が出店しなくても)自分でイベントを開きたいと思っています。

体験者のメッセージ

### 深くもゆるくも関わられる 余白を感じるつながり

私が暮らしていたデンマークでは、自分が暮らす社会への参画意識があり、日常において自分の考えを表明しあい、互いに違いを受け入れながら認め合う環境が整っていました。帰国してからは、日本ではそのような対話の場が少ないな、と感じるようになって。

マーケットの学校は、参加者同士がフラットに発言し、みんなと考えをひろいながら、新しい考えや言葉を創り上げていく場でした。参加者の意見を大切にしており、とても居心地が良かったです。深く関わることもできるし、ゆるく関わることもできる。関わり方に余白が残っていました。このような場は貴重だと思えます。みんなの想いが重なりながら新しいものができていく感じに可能性を感じました。

家族や職場以外の場所として、自分が暮らすまちや興味があるまちに関わることで、視点が豊かになりました。

北本には「何かをやりたい」という気持ちがある人に向けた土壌が形成されている印象をもちました。

なんば 南波 美帆さん(鴻巣市在住)

1年間デンマークで生活し帰国後、暮らしのそばに自然がある北本にデンマークとの親和性を感じ、魅力を感じるように。北本に何か関わりたいと思っていた時にマーケットの学校を知り、都市型市場(仮設型直売)について卒業論文を書いた経験から今回参加することに。参加を通して何かチャレンジしてみたいとの思いから、12月には海外での生活による気づきをシェアするトークイベントを企画されています。



グループワーク中の南波さん







「さつまいも」について学ぶことがメインの集い。そんな中、広々とした空間における楽しみ方は人それぞれ。子どもと遊びながらさつまいも掘りを見学している人。雑木林の中で座って、さつまいも料理ができあがる様子を眺めながら楽しむ人。北本の美味しい食材と魅力を味わいながら、ゆったりとした時間を感じられる場となりました。



# 時

とき

ゆったりとした時間

# &green 暮らしの学校

暮らしの学校とは？

「&green暮らしの学校」は、北本の自然や豊かな食を学び、暮らしを楽しむ学校です。  
各回のフィールドワークでは、テーマごとにお招きする先生と一緒に、北本の食や自然と一緒に学び体験していきます。  
今年の10月に第1回目を開催。第2回目の開催情報は7ページの「北本市観光協会からのお知らせ」に掲載しておりますので、ぜひご覧ください。

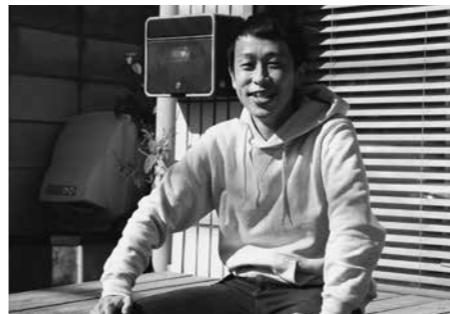
『第1回 雑木林のある暮らし  
さつまいも収穫のお手伝い』

10月24日に開催された第1回目では、北本市で古くから盛んに栽培されていた「さつまいも」をテーマにとりあげました。  
さつまいもを栽培されている「いとうふあーむ」さんを先生にお招きし、さつまいも収穫のお手伝いを体験。その後、雑木林に移動し、市出身の管理栄養士GOHAN-NIMAYU(ゴハンマユ)さんに採れたてのさつまいもを味わう料理を振舞っていただきました。



GOHAN-NIMAYUさんに作っていただいた「さつまいもの「コナツカレー」

日常の時間の過ごし方についてある程度自分の中にある選択肢が決まってしまうかと思えます。休みの日なら、朝起きて、家事をして、友達に会おうとか、外食してみようとか。  
今回暮らしの学校に参加してみて、身近にもともとあったけれど、今まで知らなかったものに気がつきました。  
(暮らしの学校が開催された)さつまいも畑は、実家から駅に向かう道の途中にあるので、畑があること自体は知っていました。でも普段はその道をただ通るだけ。畑を誰が管理しているのか、どういう風な想いで育てているのか知りませんでした。



吉川 将太さん(市内在住)

北本団地育ち。専門学校時代に全国に友達が欲しいと思い、青春18きっぷで友人と一緒に全国各地を旅した経験あり。「場」がきっかけになり「人」が繋がっていくという考えから「居場所づくり」に関心をもち、現在は北本の暮らしの研究会や、暮らしの学校に参加しています。



暮らしの学校に参加している吉川さんご家族

## 体験者のメッセージ 身近な非日常体験

参加者それぞれが自由に楽しんでいて、広々とした空間のなかで、人とのつながり方や楽しみ方に自由度があり、とても居心地がよかったです。わざわざ遠くに行かなくても、身近でこんなに楽しめる非日常体験ができるなら、参加してよかったし、参加した方がいいなと思えました。  
「新しい場所に行くのは苦手だけれど、参加してみようかな」という人にメッセージを送るなら、参加するためのハードルは低いということは伝えたいです。色んな楽しみ方があって自由度が高いので、一回来てみると、何か伝わっているものがあると思います。

「シティプロモーション」と聞くと、外から人が集まってくる仕掛けをするという印象を持つ方が多いかもしれません。しかし北本市では、暮らしやす人や関わる人が、まちに興味を持って好きになるきっかけをつくったり、何か楽しいことをしたいと思っている人同士が繋がったり、活躍できる場をつくることを大切にしています。あなたらしいより豊かな暮らしをつくる要素として、北本の「ひととき」を体験してみませんか。

## LINEアカウント 「&green fan club」開設

今後のマーケットの学校や暮らしの学校のほか、市内のイベント情報、登録者限定の特典企画等を配信していきます。ぜひご登録ください。



岡 市長公室シティプロモーション・広報担当(☎511-9119)

※新型コロナウイルスの中、市民の皆さんに楽しんでいただけるイベントを考えています。今後も新型コロナウイルスに配慮しながら実施していきます。